

# 西洋聴覚員会

## (政治集会に向けて)

抑圧されまも、追いつめられまも、それゑもなおかつ、  
強靱なジャズの音がやっまくる。  
どんなに遠くに押しやられまも夜空を、闇をくぐり抜ける  
夜汽車のようにジャズは走り続けるのだ。間断なく、  
間断なく、----- 夜汽車は進む、進む -----

長いトンネルを抜けるとそこは雪国だった。

あなたはなぜ、フロリダリゾートに存れないの？

聴くことを、聴こうと思えば、盲目になれ！ そこには  
闇の世界しかないのだ。

あなたはなぜ、フロリダリゾートに存れないの？

おれはなぜ、フロリダリゾートに存れないのか？

政治過程を一度見たものは、政治の視覚でしか、物  
は見られないのだ。

あなたはなぜ、フロリダリゾートに存れないの？

おしえて革マルよ！

## ○半年間の活動内容

昨年6月14日、我々は「大学立法粉砕！」というスローガンに掲げた西洋史行動委員会と結集した。そして、バリスト反対というクラスの決議にもかかわらず、6月22日バリストに突入し、学生を擁護を占拠した。それは大学立法が、まさにニホからの我々の日々の生活=授業、サークル活動等々に対して抑圧するものとし、又その立法を取り囲む教育制度そのものが我々を抑圧するものとし、教育の矛盾を追求する斗い支組み、バリストに突入したのであった。

小・中・高校を通じた能力別教育の一面的發展を延ばすものとしての大学教育、寧ろは寧ろほど、尊厳奴隷としての穴へ埋没せしめられる。現在の教育制度。

そして、70年代にいたっては、近代的・帝国主義的産業再編成に見あった、新たな多面的複雑的教育。いわゆる加藤近代化路線、新構、想大学、放送大学等々に見られる如く、フィルム・オーディオにも、まさにそれらの発展に見合った新たな教育制度が進行せしめられている。

東大斗争でかなりハデに流行した「帝大解体」なんてテレビ・オーディオにとっては痛くも痒くもないのである。学則が学ぶほど、他人は他人ほど、そのことは自らを混沌とした泥沼にはまり込み、資本の下へ隷属してゆくのだ。故にその自らの前にあらわれた教育の矛盾を追求し、突破することには自らの欲求を解決できぬものとして我々西洋史行動委員会は一貫してあの重いハリケードの4か月を316番教室で共に奮闘所を同じにし、決ったのだ。我々は教育の矛盾を追求する斗いを貫徹するのにふさわしい手段を必要とするため、又、真に仲間が欲しいという欲求のもと西洋史行動委員会を結成したのかという、6、14の時空では疑問であるが斗いが進めば進むほどそれはどう諸個人の中に団結を必要となり結成されたことは明確である。しかし団結は単に目的を規期するための手段にとどまらず、~~その自身~~ 諸個人の自的なるものための方策としてあり、遂に斗いはこの生きた団結を全面的に用花せしめる為の手段なのである。

10、9ロックアウト以後、我々はあの10~11月斗争を目前にひかえ、我々諸個人に教育の矛盾そのものが真に我々の生るの中に苦痛を感じさせるだけ鮮明であるかという疑問を背負いながらも、周囲の状況に完全に押し流され、右にXX、左に鉄血イ子をもってあの11月17日ドジャリの雨の中、大郷の土の上で、我々は言ひようのない敗北感を背負いながら佐土の泥行村を見送っていた。

そして18日からのなしくずしの授業再開、学園ロックアウトに対して声を上げて反対していたカトにもかかわらず、現在多くの学友がレポート提出そして試験勉強に身中になっている。そして6月からの斗いの中で創られてきた我々の団結も一枚、一枚はがされようとしている。団結なんて幻想だったのかという疑問が頭に浮かんでくる。我々の斗いは、団結が単に手段にしかすぎず、帝国主義打倒のための団結、普遍の中におけるあくまで個人的な欲求、そして斗いが生み出さなかったのではなかっただろうか。我々にとって闘いは何なのか？ 共産主義社会の構造がどうのこうのもない。ただ現実の混沌とした泥沼にはまり込んだ自分の存在そのものの中にしか革命の現存性はないのだ……。

## <70年代における我々の斗いの方向性>

全日的に定期試験、卒業試験なるものが行われようとしている。それはまさにあの我々が問題にした大学立法の質的変化としてあるし、テレビ・オーディオの七十年のその攻撃の第一歩そのものなのである。現在授業を受け試験を心配している学生そのものの日々の生活の中に我々は自分自身の

苦痛の対象を見る。試験を拒否するのは現実に於いて、教育制度の批判として現  
現在の我々にとって深く、重くのしかかっている。しかし我々は定期試験の粉砕！入  
学試験の粉砕を叫ぶには足りない。それは、もはや我々の要求がこの教育制度  
をして、この資本主義制度そのものを極格として感じるが故にそのものを突破する激烈  
なる熱情と力を生み出すを得ないからである。

現在、あの沖縄においては全軍労が大量解雇撤回の斗いを、沖縄の反戦系労働者  
のレッドページと相応して、組みオ一糸48時間、オニ波<sup>2</sup>20時間ストが貫徹された。  
日米共同声明の名のもと72年沖縄へ返還をテコとし、日米反革命同盟が本土  
沖縄を支配し、アジア太平洋圏の一環として、東南アジア、朝鮮、台湾を巻き込んだ  
上、そして本土の自衛隊基地と共に沖縄の反革命基地の強化、合理化を進  
めようとしている。そして単に全軍労の労働者のみならず、オニ波においては基地  
周辺の人民をも巻き込んだ賃金労働者の生活そのものを問題にする斗いにまで発展し  
た。切けは切くほど資本の隷属し、自らの運命をブルジョアにゆだねていく。

学生においては学べば学ぶほど一己の労働力商品としてブルジョア社会に放り出さ  
れ、尚いっそう資本の泥沼にはまり込む。そういった中における自らの存在を  
見る限り、俺自身反省せずにはいられない。幻想の団結、共同体を再度創り出さ  
ずにはいられないのだ。再度、孤立という現実を求め、あらゆるクラスサクル  
取場における仲間と連帯せずにはいられない。

他人の反逆として始まった我々の運動も明大斗争をくぐり抜ける中、莫大の群  
衆の壁にぶち当たり、他人に終わろうとしている現在、資本の下へ絶望的隷属を  
強えられる一人として、全く自らの運命を他人の運命の中に見、他人...自...組織  
された反逆、斗いとしていかなばならぬ。それに抗するために再度我々は  
必要な団結と武装とをクラヌの学友、全日の学友、斗う労働者、農民との協力  
で完ち取っていかねばならぬ。孤立を恐れず、連帯を求めると当初いい  
ながら、自らが孤立を創った現在、再度、再度、その孤立を孤立として素直に認め  
その中に一片の団結を見出す斗いを開始しよう。

多くの学友諸君！斗いは一人より開始されるのだ。まず一人から行動委  
員会を立ち取れ！現在、丸裸の西洋史行動委員会は一人になっても斗い  
は続く！

〈文責線平〉

スローガン

七〇年アジア太平洋圏安保粉砕！  
日米共同声明粉砕！  
沖縄全軍労と固く連帯せよ！  
三里塚人民抑圧空港粉砕！  
帝国主義的教育制度粉砕！